

令和3年12月23日 第2回 懇話会

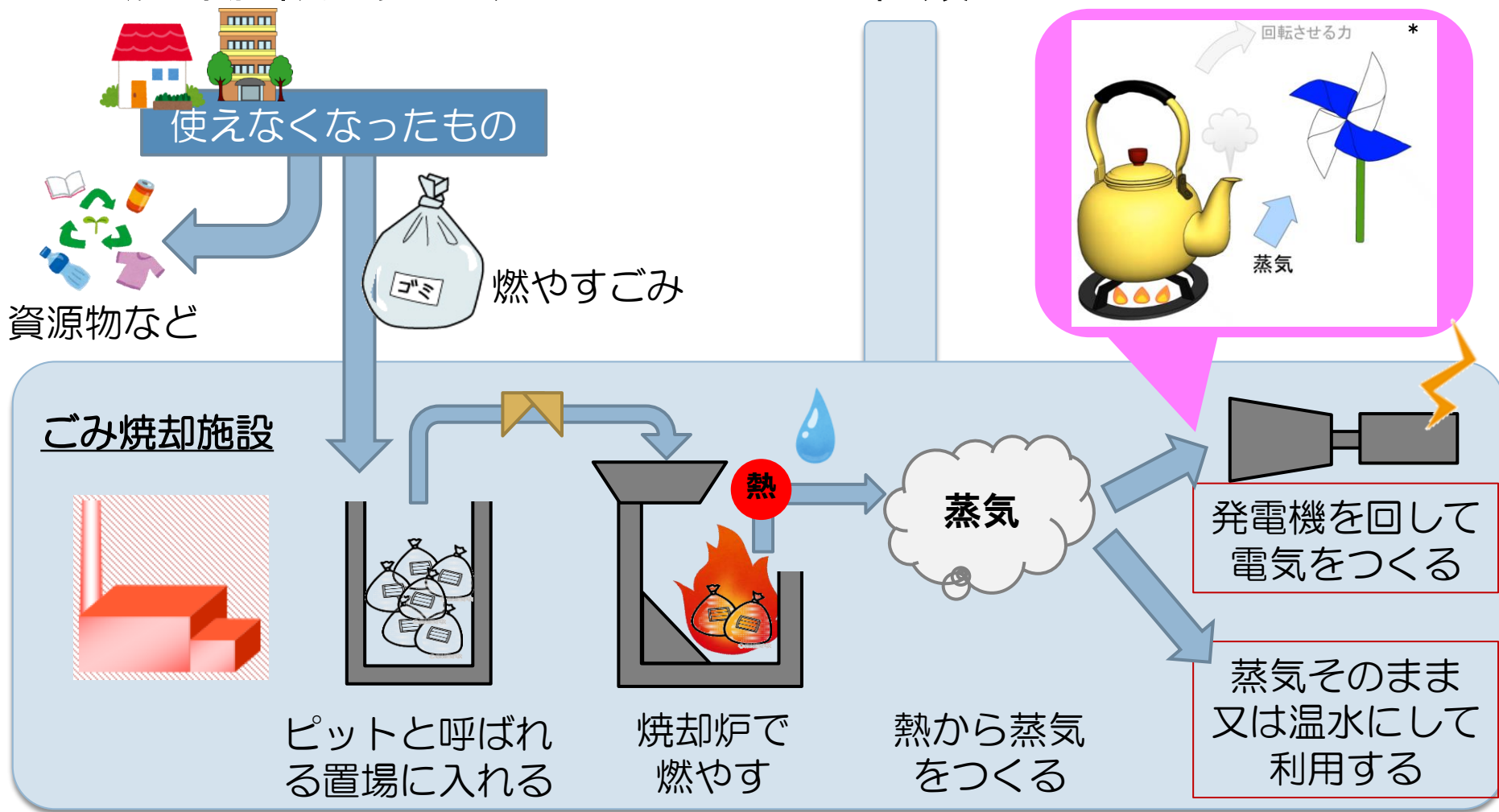
地域振興コンセプトの検討 (土淵地域)

説明・意見交換 内容

- 1 前回懇話会での質問について p2～11
- 2 熱エネルギーの利用による地域振興 p12～14
- 3 整備予定地（盛岡インターチェンジ付近）
の地域特性 p15
- 4 地域振興キーワードの抽出 p16

1-1 500t/日の施設でどの程度のエネルギー利活用 できるかについて

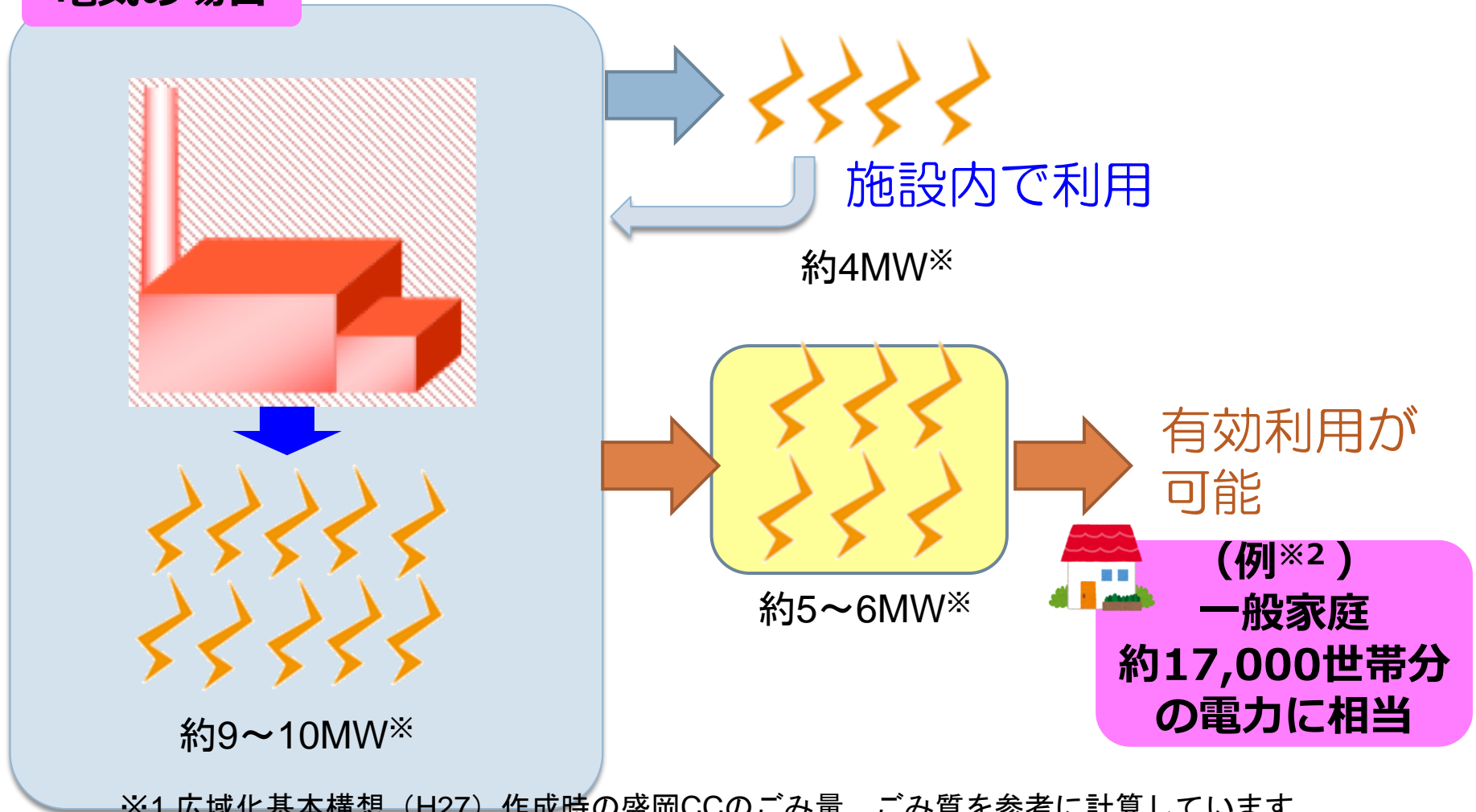
ごみ焼却施設で発生するエネルギーの種類と量



* 電気事業連合会 HPより

1-2 作られたエネルギーはどのような使い方ができるのか

電気の場合



※1 広域化基本構想（H27）作成時の盛岡CCのごみ量、ごみ質を参考に計算しています。

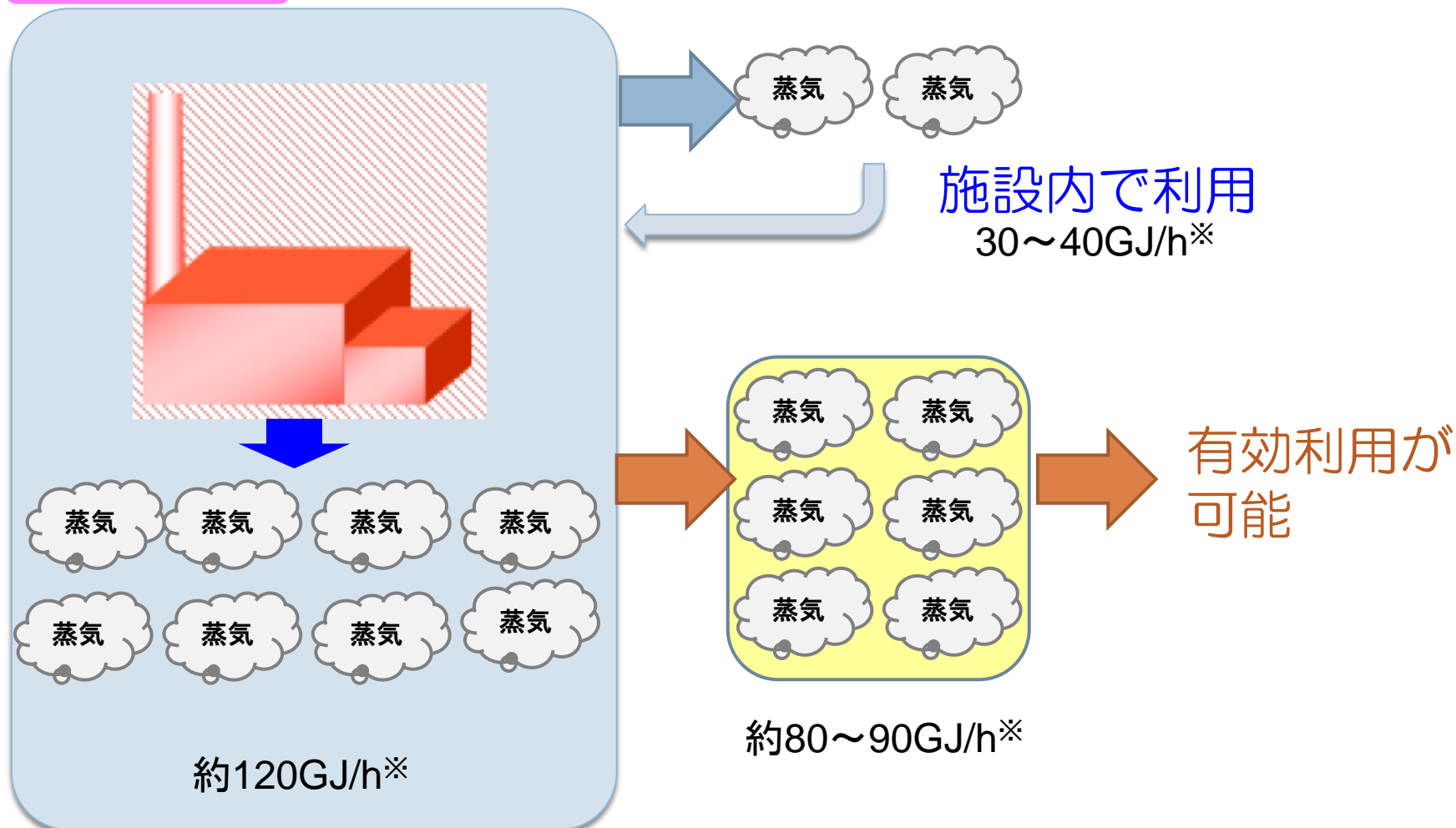
※2 施設の設計によって変動します。

※3 一般家庭に送電することが一般的になされているという意味ではありません。

※4 作られたエネルギー全量を発電する前提で計算していますが、
実際は熱との組み合わせを検討します。

1-3 作られたエネルギーはどのような使い方ができるのか

熱の場合



※1 広域化基本構想（H27）作成時の盛岡CCのごみ量、ごみ質を参考に計算しています。

※2 施設の設計によって変動します。

※3 作られたエネルギー全量を熱利用する前提で計算していますが、実際は発電との組み合わせを検討します。

1-4 作られたエネルギーはどのような使い方ができるのか



約80~90GJ/h※

有効利用の例

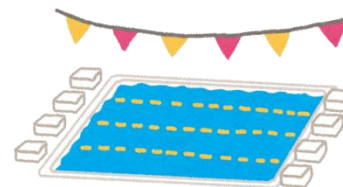
例1) 福祉施設への給湯

☁ 約0.5GJ/h※
→16m³/日 (8h)



例2) 温水プール

☁ 約2.1GJ/h※
→25m+子供用



例3) 施設園芸

☁ 約6.3~15GJ/h※
→園芸ハウス10,000m²



例4) アイススケート場

☁ 約6.5GJ/h※
→スケートリンク1,200m²



※施設的设计によって変動します。

例1 川崎市王禅寺処理センター 総合厚生施設



2012年竣工
処理能力 450トン/日

王禅寺処理センターは、川崎市北部のごみ処理の基幹的役割を担い、回収したエネルギーは、高効率発電に使用されるほか、隣接する余熱利用施設である「ヨネッティ王禅寺」に供給されている。

ヨネッティ王禅寺は、施設内に流水プール、レストラン、老人休養施設、トレーニング室等を備えた複合施設であり、民間企業により管理運営されている。



川崎市余熱利用市民事業
(ヨネッティ王禅寺全景)



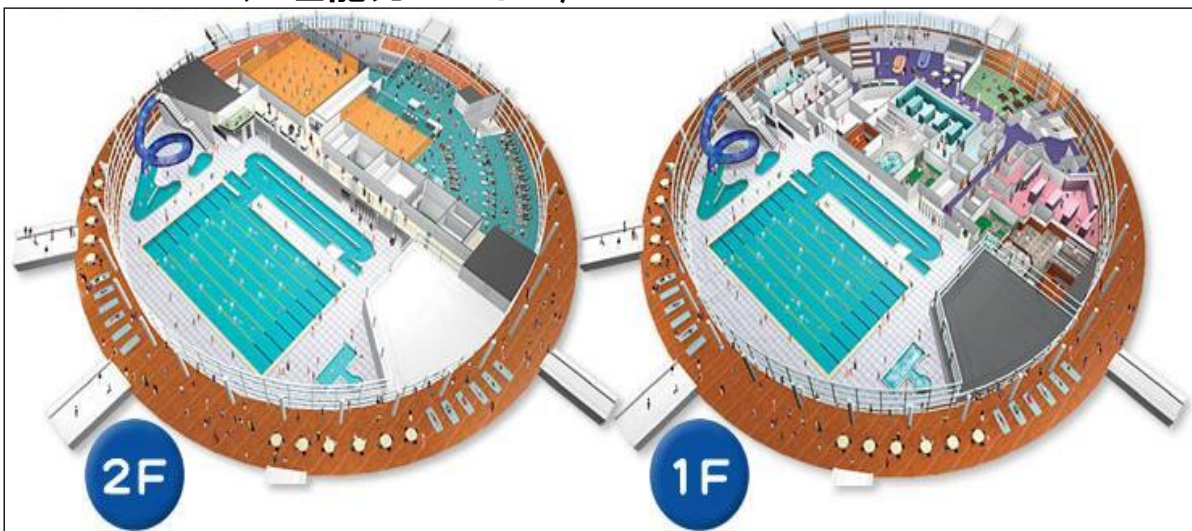
流水プール及び25mプール

例2 仙台市松森工場 スポパーク松森



2005年竣工
処理能力 600トン/日

仙台市松森工場では、隣接する健康福祉施設（スポパーク松森）へ熱供給を行っている。
スポパーク松森では、松森工場から供給された熱を温浴施設、プール及びビオトープ等の運営に利用している。



スポパーク松森



ビオトープ、ジム

例3 相模原市南清掃工場 グリーンハウス



2010年竣工
処理能力 525トン/日

相模原市南清掃工場は、隣接する神奈川県立相模原公園内の大温室（サカタのタネグリーンハウス）に温水を供給している。供給された温水は、グリーンハウス内の熱交換器で70℃のお湯として館内の冷暖房に年間を通して利用されている。



神奈川県立相模原公園内のグリーンハウス



大温室の内部



例4 千葉市新港清掃工場 アイススケートリンク



2002年竣工
処理能力 435トン/日



アクアリンクちば

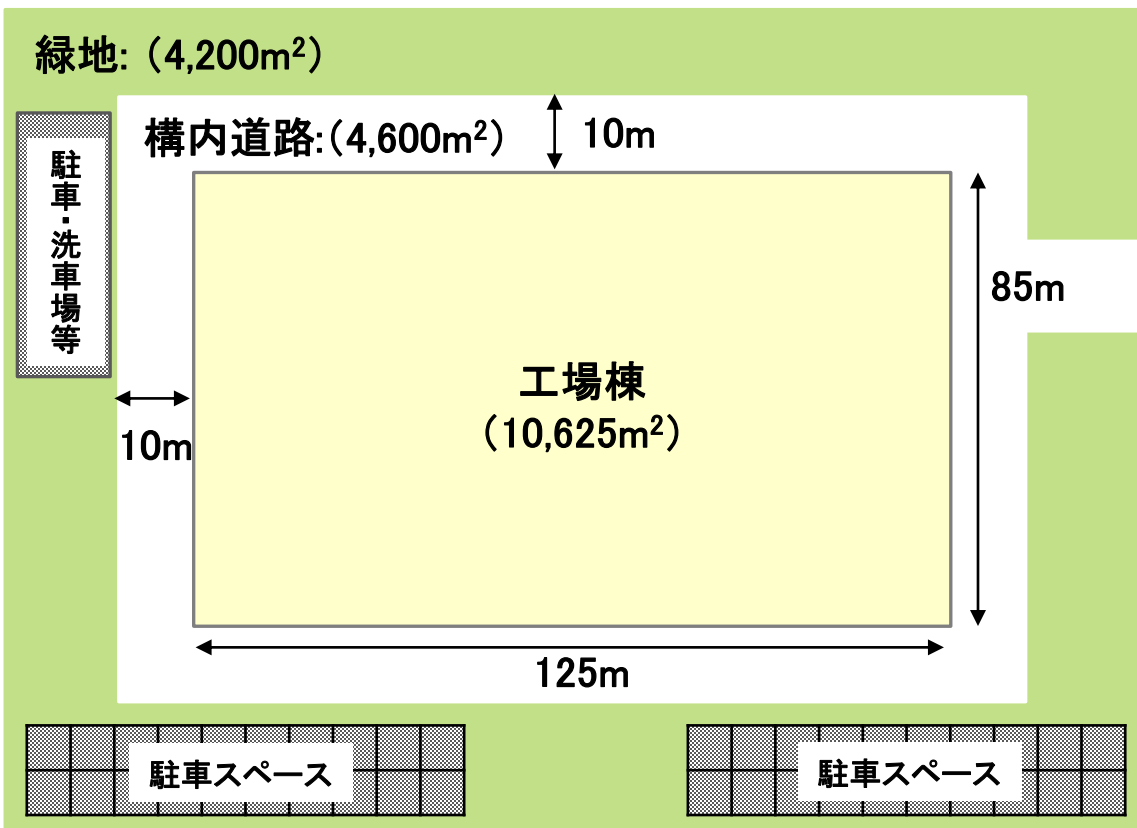
「アクアリンクちば」は千葉市のスケートリンク場&温浴施設であり、施設で使用するエネルギーはすべて隣接する千葉市新港清掃工場から供給されている。電気はアイススケート場の整氷、全館の照明、冷暖房等を使用され、蒸気は温浴施設の給湯、アイススケート場の観客の座面暖房、リンク下の凍上化防止、削った氷の融氷等を使用されている。



スケートリンク

1-5 予定地での焼却施設やその他利用できる広さは

焼却施設の敷地面積算出の例



【工場棟】

- ・建築面積の例) $125 \times 85 = 10,625\text{m}^2$
- ※炉構成や導入する設備等により異なる
- ・構内道路: $4,600\text{m}^2$
- ※外周道路の幅を10mとして工場の各辺に加えると、 $145\text{m} \times 105\text{m} = 15,225\text{m}^2$
- ※工場棟の面積を引くと、
 $15,225\text{m}^2 - 10,625\text{m}^2 = 4,600\text{m}^2$
- ・緑地: $4,200\text{m}^2$
- ※工場立地法に定められた敷地面積の20%を確保する場合の必要面積を算出
- ・その他駐車場・洗車スペース等: $1,550\text{m}^2$
- ※駐車台数100台以上を想定して $1,250\text{m}^2$ 、その他洗車場など 300m^2 程度

工場棟	10,625m ²
構内道路	4,600m ²
緑地	4,200m ²
駐車・洗車場等	1,550m ²
合計	約21,000m ²

現在約5haを敷地面積として取得予定としていることから、**余熱利用施設として約2ha程度は使用できるのではないかと想定される。**

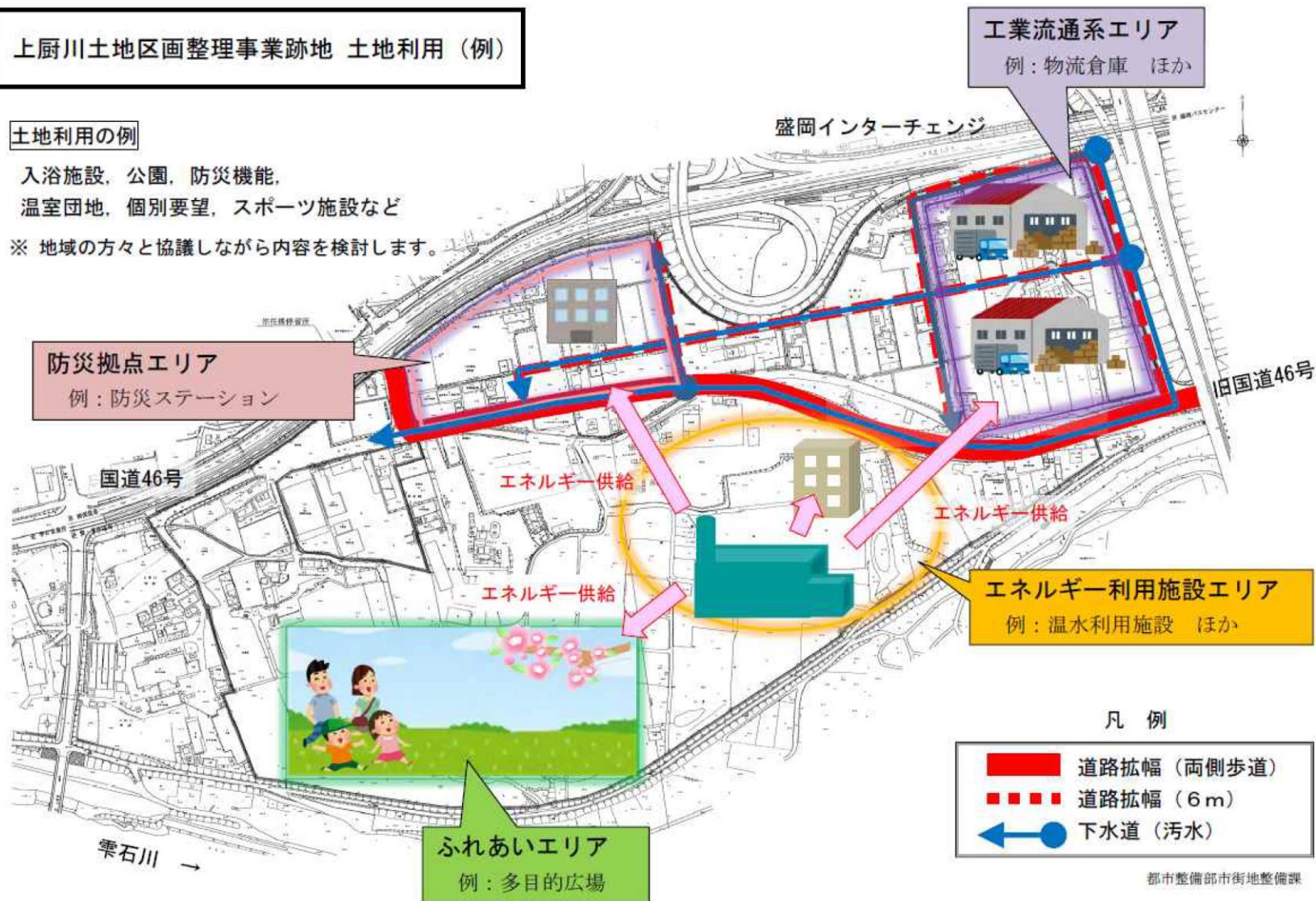
1-6 上厨川土地区画整理事業跡地の土地利用に係る全体イメージについて

上厨川土地区画整理事業跡地 土地利用（例）

土地利用の例

入浴施設、公園、防災機能、
温室団地、個別要望、スポーツ施設など

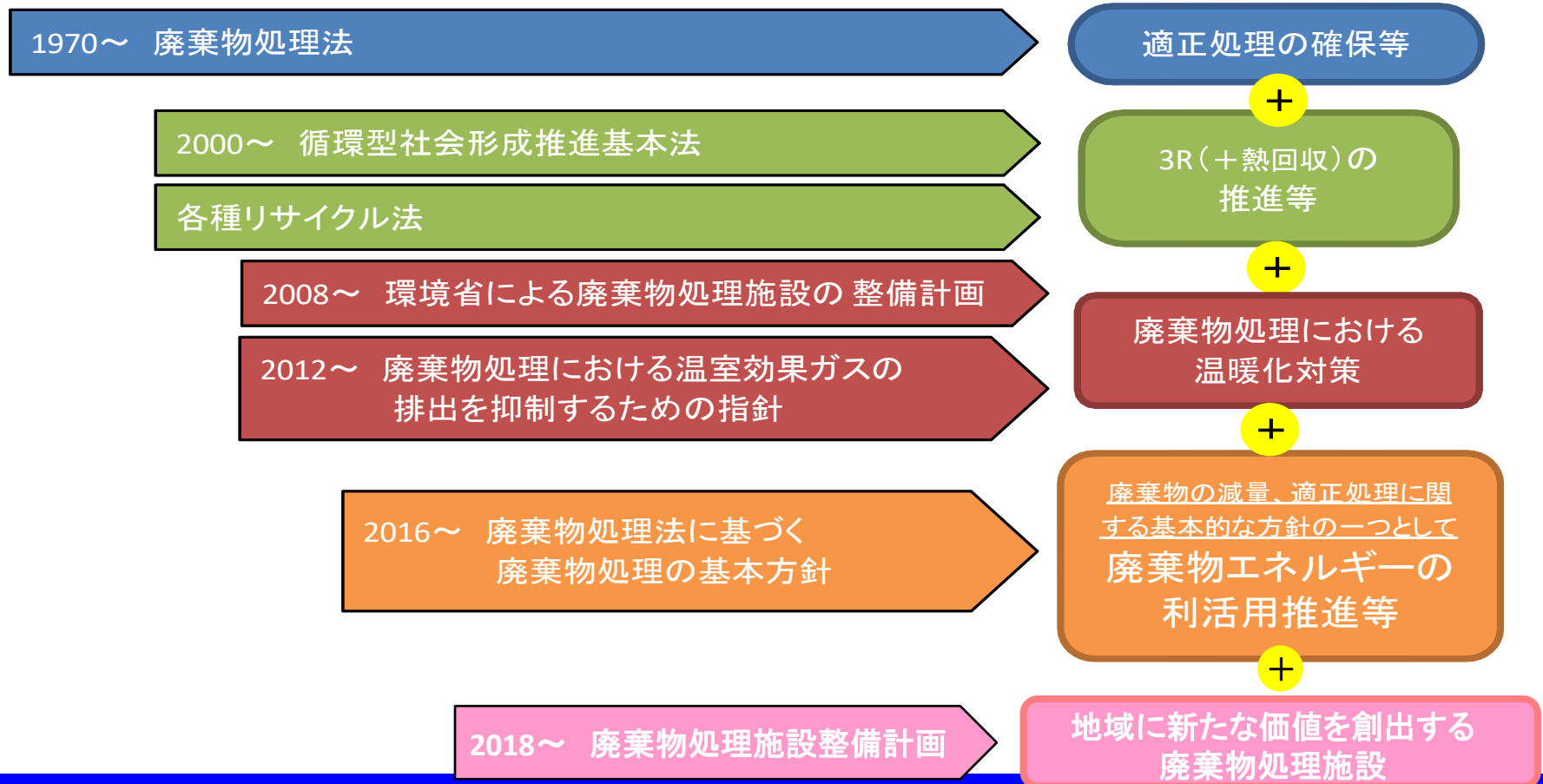
※ 地域の方々と協議しながら内容を検討します。



※上記は、平成30年11月 土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会資料から抜粋

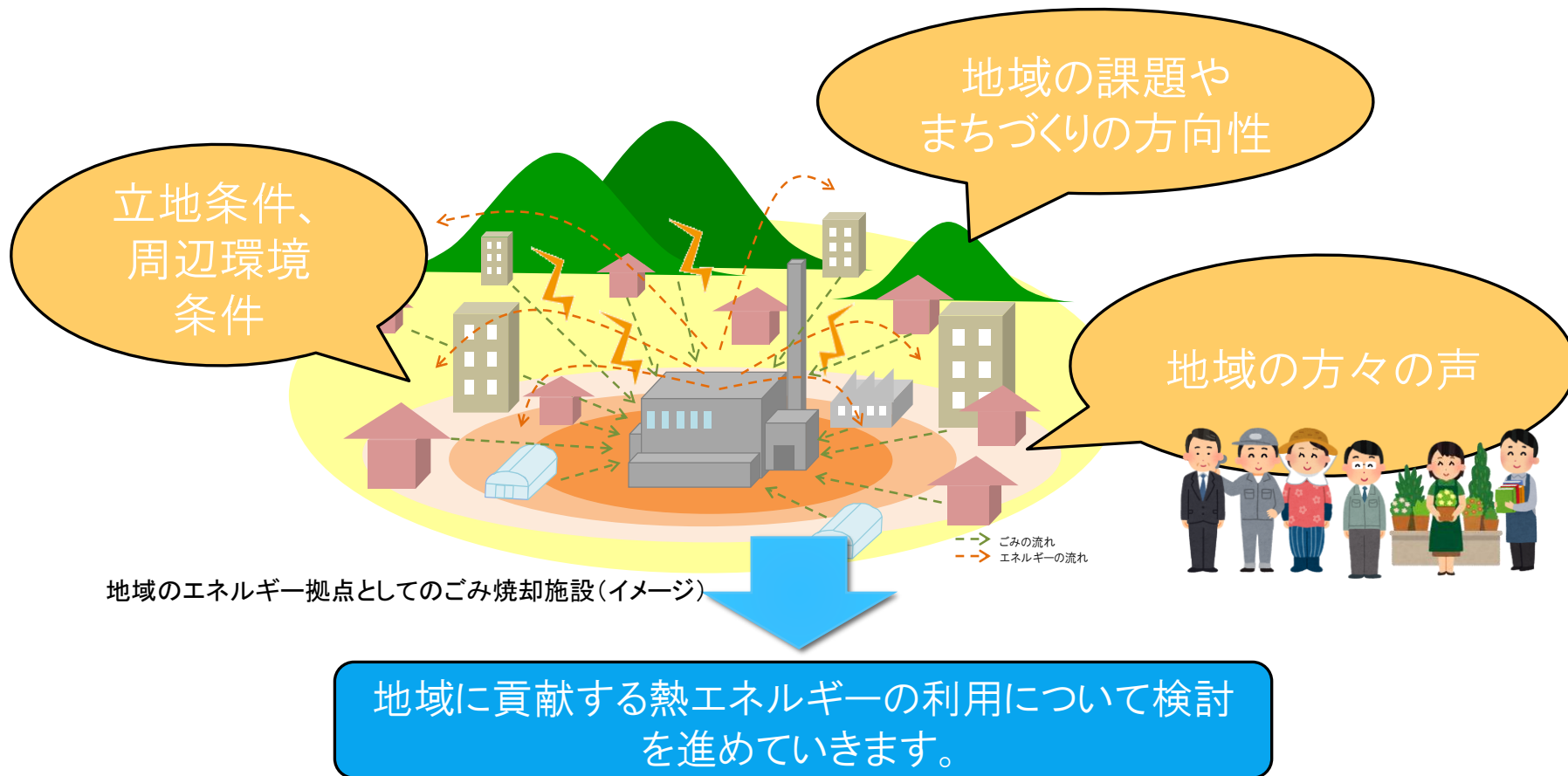
2-1 熱エネルギーの利活用による地域振興とは

◆廃棄物処理の歴史的変遷の中で、廃棄物処理の過程で回収したエネルギー（熱・電気）は、積極的に地域のために利活用することが期待されており、廃棄物処理施設整備計画（平成30年）においても「地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設」の整備に取り組むこととしている。



2-2 熱エネルギーの利用による地域振興に向けて

◆地域の特性を踏まえたエネルギー利活用方針を立てることが大切です。



2-3 熱エネルギーの利用による地域振興

◆エネルギー利活用による地域の課題解決・活性化

工業利用



集客効果のある施設への利用



農業利用



健康増進施設への利用



ごみ処理を通じた地域への多様な価値の創出(イメージ)

3 整備予定地(盛岡IC付近)の地域特性

◆地域特性

- ・国道46号と雫石川に挟まれた平野部に位置している。
- ・近隣に東北自動車道盛岡ICや大規模商業施設(イオンモール)があり、広域交通と都市交通の要衝となっており、流通系・工業系用地としてのポテンシャルは高い。



- ・地元から“まちづくり”, “地域振興”の観点からの土地利用を求める要望を受けている。

あわせて、「土淵地区のふれあいと賑わいのあるまちづくり懇談会」や地域住民による「上厨川地区のまちづくりを考える会」でまちづくりに向けて、検討している。

※要望内容: 地区計画による開発, 余熱利用による地域振興, (仮称)前湯駅など

◆廃棄物エネルギー利活用による地域振興の可能性(例)

- 交通の要衝である立地条件を活かした流通業務系・工業系としての土地利用や市民の“憩う場・集う場”兼 災害時の防災拠点づくりへの活用を念頭に、地域のまちづくり計画との整合性を図り、エネルギー供給施設として今後の整備を検討。

4 地域振興キーワードの抽出

◆土淵地域の特徴などから、地域振興に係るキーワードを挙げてみましょう。

キーワードの抽出	
(例) ・温水利用	(次回懇話会で分類分けし整理・具体化) →エネルギー供給施設
・環境学習	→
・地元雇用	→
・	→
・	→
・	→

おわりに（地域振興の方向性について）

◆次回以降の懇話会においても、皆さまとのイメージの共有のため検討してまいりますので、持ち帰って周りの方と意見を交わし、必要に応じて、御意見をいただければと思います。

